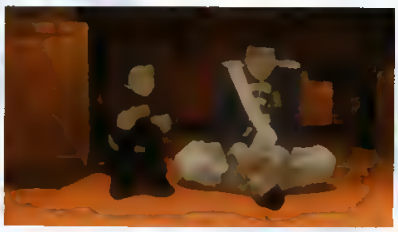
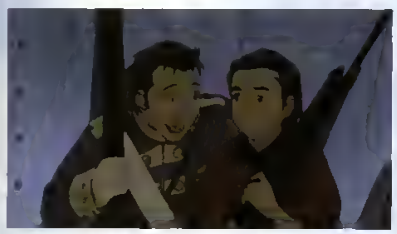
ドゥーニャは家族が幸せに暮らせる世界を築くため軍隊に入った。だが彼女の願いも空しく移民は失敗した。ドゥーニャの慟哭は砂漠にいつまでも響いた…

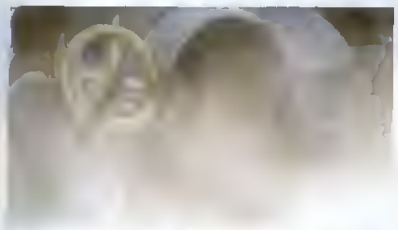
アナトレーとデュシスが同盟を結んだ頃、２人はホライゾンケイブで出会った。ドゥーニャの境遇を知ったモランは、自分の手で守っていきたいと思い始める。



ドゥーニャもまた、モランの優しさと明るさに心を惹かれていった。ドゥーニャの無垢な素直さもあるが、苦しい境遇から抜け出せる光明に見えたのだろう。



ドゥーニャを気遣うモラン、その優しさに応えるドゥーニャ。突入作戦を前に安らかなひと時か流れる。お互いの気持ちを確かめ合う２人であったが……



運命を決する突入作戦が開始された。モランはドゥーニャを戦闘に参加させまいとわざと突き飛ばす。そして彼の体にギルドの銃弾が容赦なく突き刺さる。

モランは重傷を負いつつもユニット離脱レバーを押し戻した。作戦は成功した。だがドゥーニャが目にしたものは、血の海の中にいるモランの姿だった…

Traitorous Designs

策謀……宰相と皇帝

左●アナトレー皇帝
右●マリウス・バシアヌス

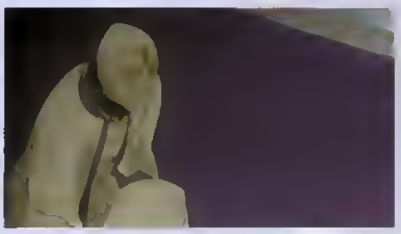
おそらく、マリウスを登用したときの皇帝は賢明であったのだろう。ギルドの内乱と四大家系の崩壊はすなわち、地上への脅威でもあった。ギルドの秘技を吸収し、来るべき戦争への備えとするのは為政者としての義務であった。

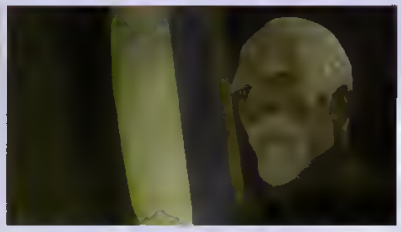
マリウスもまた、ギルドの脅威を身をもって感じていた。四大家系の主だった者を全て粛清し、自分を殺そうとしたデルフィーネは地上へと侵攻してくる。気象管理を放棄したデルフィーネは必ず世界を崩壊させると…。

マリウスにとって、地上での生活はある意味、充実したものであったのだろう。ヴァンシップ部隊の創設、新造戦艦の建造と工廠の建設、優秀な軍人の育成。これら全ては、世界の安定を願ったものであった。

だが、皇帝とマリウスの蜜月は終わった。皇帝は老いたと同時に猜疑心にさいなまれ、ついには娘である皇女ソフィアの言葉すら拒絶してしまうのだった。

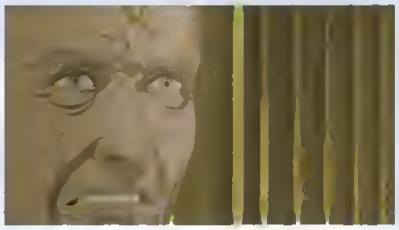
デュシスの夜襲で、燃えさかる王宮の中で、皇帝とマリウスは互いの体を剣で突き刺し果てた。マリウスには、新しい世代に未来を託すしか方法はなかったのである。

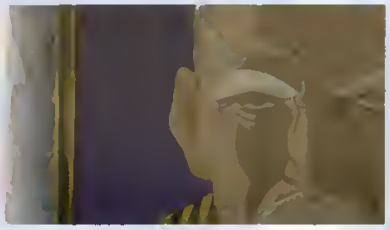




皇帝と宰相の共通の目的、それはこの世界の安定であった。だが長い戦乱が皇帝の心を疲弊させていた。

娘のユーリスとともに、実の娘同様に育てた皇女ソフィアこそがマリウスにとって最後の希望であった。





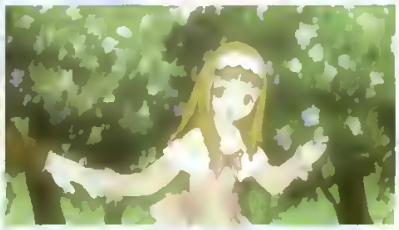
だが皇帝は娘であるソフィアの幽閉を決定する。希望を未来に繋ぐため、マリウスはある決意を固める。

マリウスはソフィアに全てを託し皇帝とともに炎の中に消えた。古きものが新しきものへと変わるように。

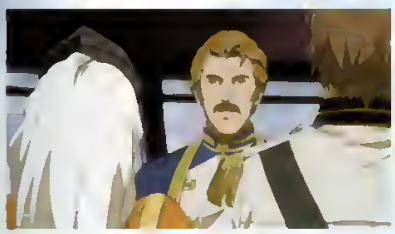
左から ●デーヴィッド・マドセイン ●ネストル・メッシーナ
●ホリー・マドセイン ●マドセイン夫人

Chivalry

騎士道……マドセイン侯とデュシス



ギルドの怠慢で寒冷化が進むデュシスにとって、豊かで暖かい、アナトレーの大地はあこがれだった。



かつてアナトレーはデュシスに和平を申し入れようとした。そして今、和平の意思がデュシスに伝わる。

アナトレーの誠実な態度にネストルも心を開く。ギルドの支配を覆すために、ふたつの国は手を取り合う。

アナトレーとデュシスの新しい歴史が始まった。ホリーもまた、新たな時代のために強くなっていった。

「騎士道」とは、騎士が守るべき倫理的、美的行動規範であり、忠誠心、武勇、礼節、弱者や民衆へのいたわりなどを指す。

身分の高い貴族は、戦場で勇敢に戦うことによって貴族の義務を果たそうとした。そして私利私欲を捨て、つねに大局を見渡して判断することが求められていた。民衆の立場になって考え、無益な戦闘を行わないマドセイン侯の有り様は、まさに騎士道の鑑である。

デュシスのネストルもまた、礼節と武勇を重んじる武人だった。この2人がこの時代に居合わせたことはまさに幸運であった。

恩讐の輪廻を断ち切るには、確固とした共通認識が必要だった。それが「騎士道」であったのだ。

そしてもうひとつ、新しい世界に必要なのはギルドもアナトレーもデュシスもない、縛られない価値観、人を慈しむ慈愛の心だった。

邸宅を野戦病院として開放するマドセイン夫人と、敵味方を分け隔てなく看病する娘のホリー。この慈愛の心を一番理解していたのは、2人の女性であった。

彼女達もまた、新時代への礎だったのだ。

14話「ブレーク・スルー」(LVD8巻)
幽閉されたソフィアに決意を語り、皇帝と対決するマリウスなど見所満載。アナトレーとデュシスの関係の転換期となる。

18話「プロモーション・ソディア」(DVD3巻)
ネストル司令の武人としての誠実さが描写されたエピソード。新たな時代を築こうとする気概が感じられる。

24話「シールド・ムーブ」(DVD12巻)
看護婦として頑張るホリーが健気で良い。決死の覚悟でギルドに戦いを挑むマドセイン侯とネストル司令にも注目。

Fated Princess

宿命……ソフィア・フォレスター

●ソフィア・フォレスター

アレックスへの想いは叶わないとソフィアは知っていた。

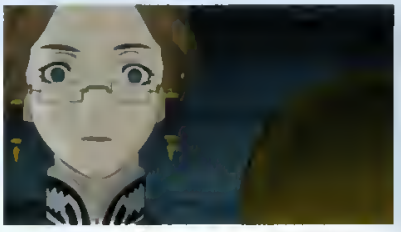
幼い頃より、ユーリスとは姉妹同然のように育てられたソフィアにとって、彼女の存在は超えられない憧れでもあった。ユーリスはアレックスにとって大事な、そして永遠の存在。彼女を越えることは絶対に不可能だと知っていた。

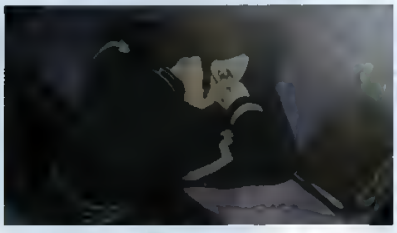
だがソフィアは、父や育ての親を失った悲しみの迷宮で彷徨っていることを許されなかった。

新しい時代を切り開く。そして、それを希望ある若者達に伝える。それが、皇帝として即位したソフィアに課せられた使命。たとえどのような犠牲を払おうとも、どんなに血塗られた道を歩もうとも、ソフィアに逃げることは許されなかった。「ノーブレス・オブリージュ」という言葉がある。……高貴なる者は、勇気、仁愛、高潔という徳を積み、社会に貢献する責務がある。だからソフィアは誓うのだった。一生涯をアレックスの副官として、この世界を正しい方向へと導くと。クラウス達に新しい未来を託していくと…。

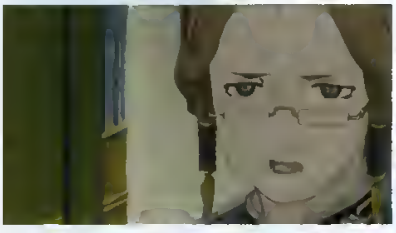
それがソフィアにとって、アレックスに対する唯一の愛の証。永遠に打ち勝つ最後の手段だった。

クラウス達には優しく接するソフィア。だがアレックスの前では彼を慕う気持ちを抑えて振舞っていた。





ヴィンセントとの戦いは、国家への反逆を意味していた。避けられない戦いに、ソフィアは思い悩む…

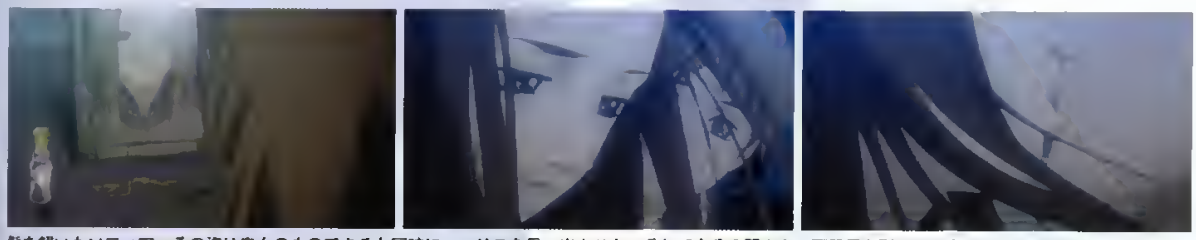


アレックスの、艦を降りてもいいという言葉にショックを受ける。涙を抑えるのが精一杯の矜持だった。

11話「ディベロップ」(DVD8巻)
アレックスの言葉に動揺するソフィアが見所。それ以外でも様々な人間模様がこの11話では繰り広げられる。

15話「フェアリー・チェス」(DVD8巻)
見るものに衝撃を与えたクラウスとのキスシーンは、ソフィアの心の揺れを示す大事なエピソードである。

左側●戴冠服
右側●皇女服



髪を解いたソフィア。その姿は皇女のものであると同時にユーリスを思い出させた。そして自分の弱さを、不器用な形でクラウスにぶつけてしまうのだった。

自身の責務を果たすため帝都へ帰還したソフィアだが、そこではマリウスとの悲しい別離が待っていた。マリウスの遺志を継いだソフィアは和平の道を探る。

成すべき道を見出したソフィアはネストルに同盟を説き、戴冠式に臨む。デルフィーネからの花びらが舞う中、戦う決意を固めたソフィアに迷いはなかった。

エグザイル確保が下命された。アルを心配するクラウスにソフィアは優しく答える。制服を手にしたソフィアは本当の居場所に帰ったことを実感するのだった

デルフィーネの襲撃から辛くも逃れるが、アレックスやディーオ、アル、クラウスが拘束される。ヴィンセントに励まされたソフィアは、最後の戦いに臨む。

16話「ブレーク・スルー」(DVD8巻)
マリウスとソフィアの情感あふれる別離のシーンは注目。ここからソフィアは自身の取るべき道に目覚めた。

18話「プロモーション・ソフィア」(DVD9巻)
荘厳な即位の儀式が一番の見所。世界を現す砂時計や、衣装に刺繍された様々なモチーフが印象的である。

19話「シリアン・ディフェンス」(DVD10巻)
クラウスでなくても視線を釘付けにするソフィアの胸元は、この作品の中でも貴重なサービスシーン?

Comrades in Arms

戦友……シルヴァーナ・クルー

左から●ゴドウィン　●ゲイル
●コスタビ　●イーサン

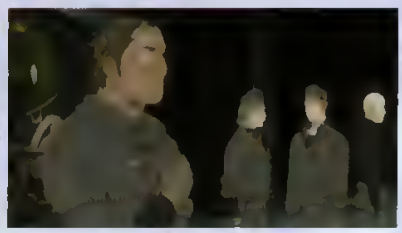
シルヴァーナはアナトレー所属艦だが、アナトレー正規軍の命令系統には属してない。それは艦長のアレックスが、独自の装備としてシルヴァーナを運用しているからである。よって、乗組員もアレックスの裁量で選ばれている。

豪放磊落でありながら、ヴァンシップを常に完璧な状態にしている整備班、シルヴァーナを手足のように操るブリッジ要員、どんな小さな物体も見逃さない見張員、そして、奇跡的な聴覚を発揮するソナー員。彼らは全員、全てが完璧に揃った歴戦の勇士ばかりである。

そう、シルヴァーナの乗組員は、アレックスに選ばれた「プロ中のプロ」といっても過言ではない。だからクラウス達が乗り込んできた当初は、彼らをプロ集団である自分達の仲間として認めなかったのだ。

だが彼らは、クラウス達の力量と、懸命に生きる姿を見るうちに、ともに戦う大空の仲間として受け入れていくのであった。

ひとつの艦の中で、乗組員達はみんな、家族同様に暮らしていた。そんな彼らにとって、クラウス達はまさに、自分達の子供のような存在であったのだ。



泣く子も黙る整備士軍団の面々。その頂点に立つゴドウィンは意外に面倒見が良く涙もろい一面を持つ。

下っ端のイーサンは、火吹きの芸が得意。気に入ったものにチェックを入れるゲイルと皆、個性豊かだ。

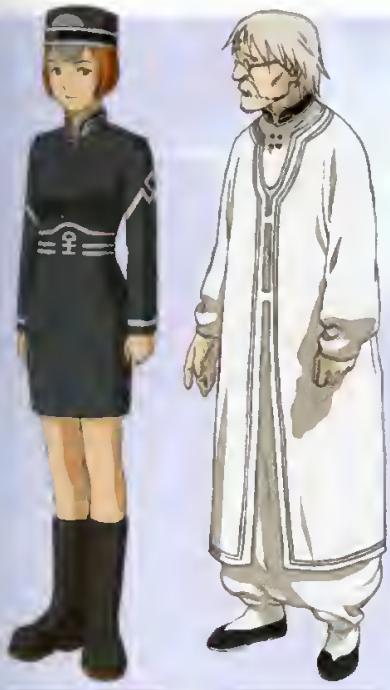
お調子者のコスタビは、整備班の調整役。といっても喧嘩となれば、一番早く手が出るタイプでもある。

本当は気のいい整備士軍団。敵側の人間であろうとも同じ釜の飯を喰ったものは大事な仲間として扱った。

シルヴァーナ・クルー
エピソード　インデックス

6話「アービター・アタック」(DVD3巻)
整備士軍団全員が登場　アルを驚かしたりクラウスを袋叩きにしたりと、個性派ぶりを発揮する。

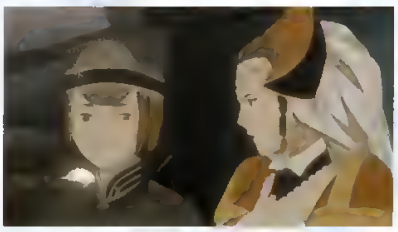
8話「テークバック」(DVD4巻)
整備士軍団、カジノで本領発揮の回。一番の毒舌家であるコスタビが、ゴドウィンを抑えるのがちょっと意外。



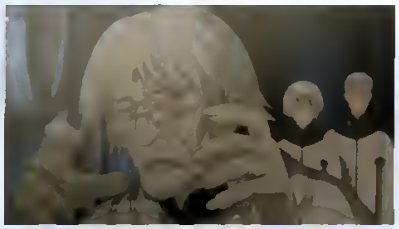
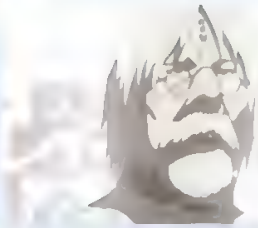
左●ウィナ・ライトニング　右●レシウス・ダゴベール

上段左より●キャンベル　●ベン
●グレイハウンド　●サム

下段左より●ギース　●ディック
●ジム　●ブリアン



音楽家志望だが経済的理由により軍隊に入ったウィナはソフィアに見出された逸材。その類稀なる絶対音感と聴力は、エグザイル探索で多大な功績をあげた。

機関長のレシウスはダゴベール家の出身。デルフィーネの廟滑から地上に逃れ、シルヴァーナ建造にも関わった。現在はアレックスのよき相談役でもある。

優秀なブリッジ要員達。とくに航海長のアーサー・キャンベルは、例え艦長命令であっても理にかなわなければ全力で意見する頭のよさと意思の強さを持つ。

地味ながらもシルヴァーナにかかせない見張員や機関士。そして司厨員。彼らがいるからこそシルヴァーナはアナトレー最強の艦として機能できるのである。

15話「フォアリー・チェア」(DVD8巻)
タチアナの変化をデュシス崩壊よりも大事件とバッサリ。ラヴィを慰めるモランもエロ本片手で説得力がない。

16話「プロモーション・ソフィア」(DVD9巻)
キャンベルが、艦長の暴走を抑え見せ場を作る。整備士軍団も要所要所でいいシーンを見せている。

20話「グランドストリーム」(DVD10巻)
一部で人気の高いウィナが大活躍。エグザイル捕捉を果たし、戦いに終止符を打つきっかけとなった。

Worthy Adversary

好敵手……ヴィンセント・アルツァイ

●ヴィンセント・アルツァイ

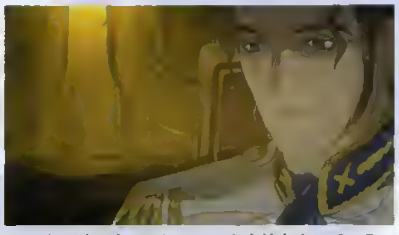
ヴィンスとアレックスとの縁は士官学校時代、寮の部屋から始まった。アレックスと同室となったヴィンスは、無愛想なアレックスに、あれこれと世話を焼いていた。

それは、ヴィンスが世話好きだからというわけではなかった。明るく快活なヴィンスは寮生活を少しでも楽しくするため、この寡黙なルームメイトの性格を直そうとしていたらしい。だが結局、その努力は報われることはなかった上、ことあるごとにアレックスはヴィンスの前に現れるのであった。当時、特別幼年科に所属していたソフィアの前に、オトラント会戦では、危機に陥った自分の所属艦隊の前に、そして龍の牙では、新鋭ウルバヌスの前に…。

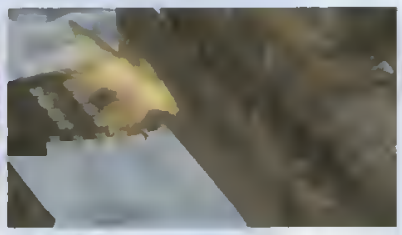
ヴィンスは、おそらく否定するだろう。アレックスとの関係を「好敵手」と呼ばれることを。なぜなら、ヴィンスにとって唯一、勝利を得られなかった相手だからだ。

アレックスに至っては、ヴィンスを友人と思っているかどうかも怪しいものである。

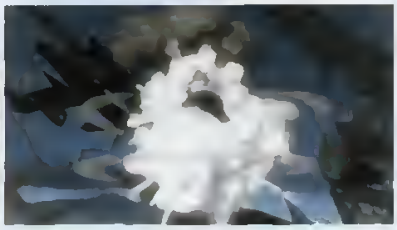
だが彼らは、不思議な縁で結ばれているのは確かであり、アレックスに対抗できる唯一の存在は、ヴィンスただ1人であった。だから2人は好敵手なのである。



ヴィンスのコーヒー好きは友軍内でも有名であった。いかなる時でもコーヒーセットを持ち歩いている。

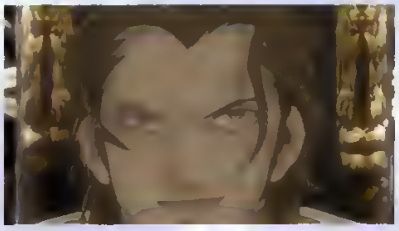
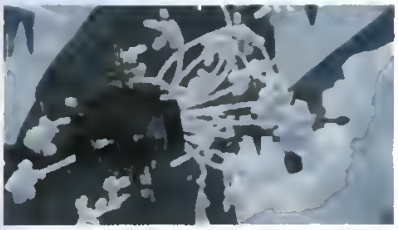


アレックスの裏をかいたヴィンスは、戦いを有利に運ぶ。彼の戦術センスはアレックスに引けを取らない。

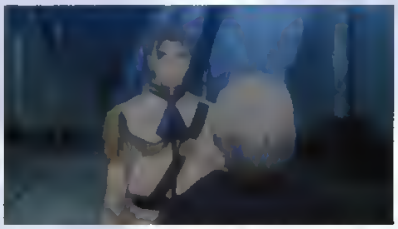


一瞬のスキをついたアレックスの奇策に翻弄され、ヴィンスは最新鋭の僚艦を一気に2隻も失う。

●ルーモルト・ドルフストランド
(ウルバヌス副官)

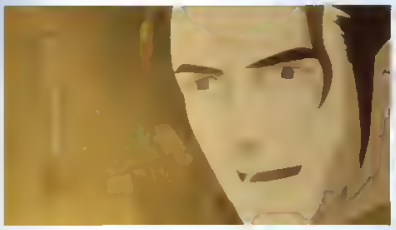



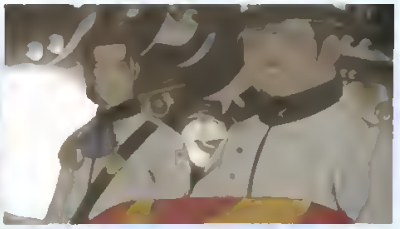
アンカーでシルヴァーナを固定するヴィンス。だがアレックスは岩礁を崩壊させ、一気に勝負を決める



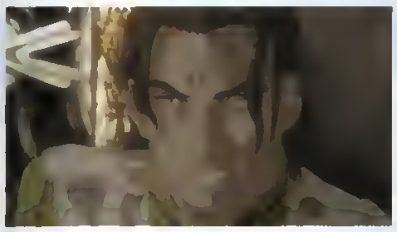
ウルバヌス級4隻を失った上、シルヴァーナまで取り逃がしたヴィンスは、近衛艦隊からマドセイン艦隊への転属を命じられる。事実上の降格人事であった。

ヴィンスは、ソフィアの危機に颯爽と現れ救出に成功する。機を見るに敏なヴィンスはマドセイン侯と共闘して、失地回復の機会を伺っていたのだった。

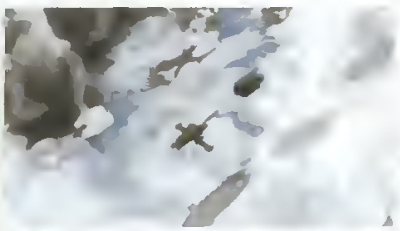




ヴィンスの活躍は、優秀な副官ルーモルトの適切な処置のおかげでもある。だがこの副官の愚直なまでの気の回しように、ヴィンスも苦笑を隠せないでいた。



ギルトに連行されたアレックスの身を案じるソフィアの姿に、ヴィンスは心を痛める。だがソフィア皇帝陛下のため、ヴィンスはデルフィーネに挑んでいく。



また3人で飲みましょう…それはヴィンスの遣まわしな告白。ヴィンスは報われない想いを「我が皇帝の盾になる」ことで、不器用に昇華させるのであった。

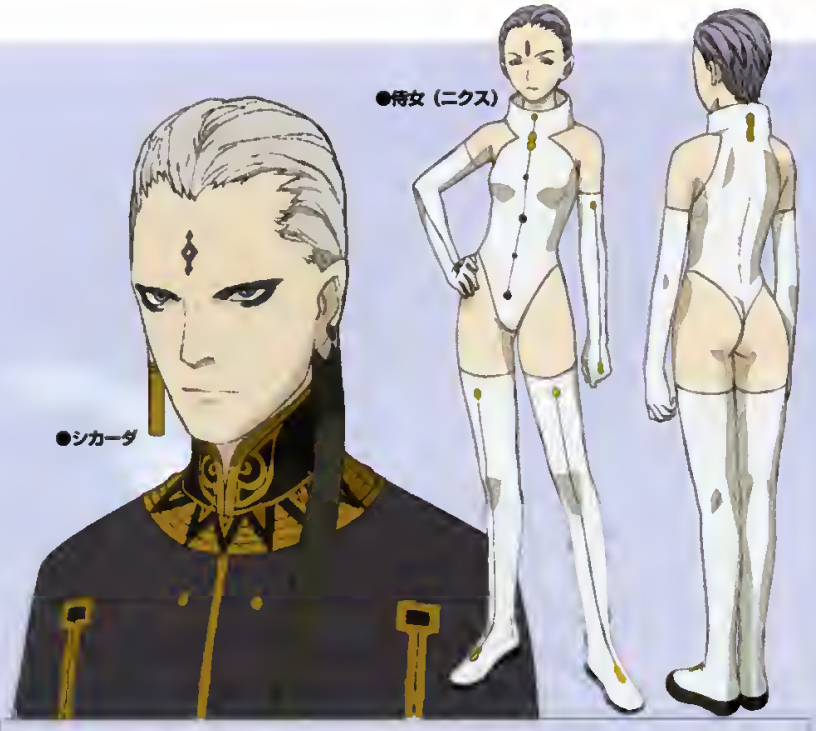
16話「ブレーク・マルー!」(DVD8巻)
ソフィア救出時に見せるヴィンスの心憎いセリフが、彼の性格を物語っている。また副官の動きにも注目。

19話「シルバニー・ディフェンス!」(DVD10巻)
ソフィア皇帝の帰艦はないと初めから読んで皇帝旗を降ろしていた副官の行動が見所。ヴィンスも大変だ。

26話「ソサイン!」(DVD13巻)
ソフィア皇帝の盾となり、シルヴァーナの血路を開いたヴィンス一世一代の活躍は、活目して見るべし。

Blind Loyalty

忠誠……シカーダとエージェント



マエストロに対する絶対の忠誠…それが、ギルドのエージェント達に許された唯一の価値観だ。だが彼らは、そのことを疑問にすら思わない。なぜなら、マエストロの支配以外の「自由」そのものを知らないからだ。

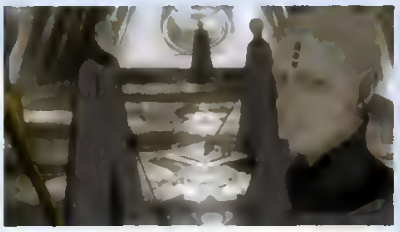
人間にとって最も大事な「自由」を知らない彼らは、ギルドのシステム維持のためなら、あらゆる行為を進んで行った。そしてマエストロのためなら、その命すら捧げていった。

そのエージェントの頂点に立つシカーダは、たとえ遺伝子的にとはいえ実の弟ですら排除しようとしたのだった。全てはマエストロのために…。

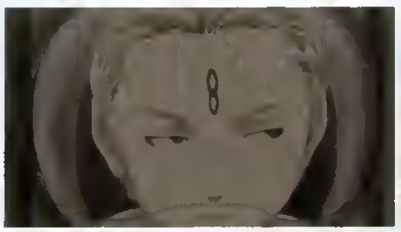
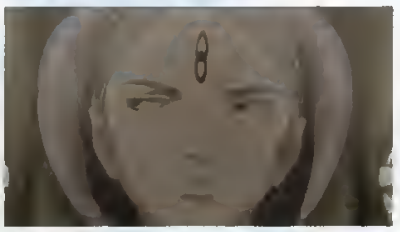
エージェント達は、高位になるほど、与えられた衣装の色が、白から黒へと変わる。それは、無垢な心が段々と、黒く変色していく様と感じてしまうのは、単なる思い過ごしなのだろうか。

マエストロを支えるエージェント達。シカーダは唯一、黒衣のロリカという衣装を許された側近である。

彼らにとって、マエストロの存在こそが全て。いざとなれば、マエストロの盾になることもいとわない。



シカーダの部下が待ち構える中、コキネラがルシオラに武器を渡す。微妙な温度差が見てとれる場面だ。

デルフィーネの侍女達も、最後には戦いへと駆り出される。この時点ですでに、デルフィーネは大半の側近を失うか、エグザイル回収に従事させていたのだ。

●技術官

●立会人

●神官

Slave Laborers

従僕……ギルドの人々

ギルドの人々は飢えることも、渇くことも凍えることもないだろう。だが彼らはそれと引き換えに、人として最も大切なものを失っていた。それは、人を愛する心、慈しむ心、ともに高めあう心ある。

彼らはすでに人ではなかった。人格を奪われた、ただ、上級技官の命令に盲目的に従い、ギルドを維持するためだけに作られたパーツに過ぎないのだった。

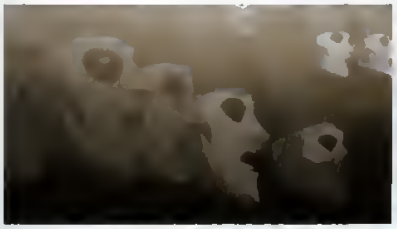
従僕とは、ひそやかに歩く者、無知の者に問われても、ただ平安あれとだけ答える者達を指す。彼らにとっての平安とは、自分自身だけのことであり、そこに友愛や慈愛の精神はない。

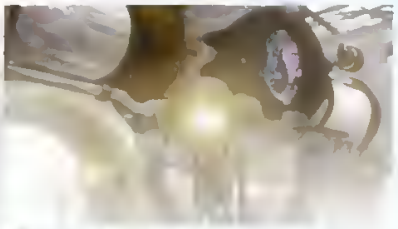
彼らは、真実の自由に目覚めることはないだろう。なぜなら、ギルドという天上の狭い世界に心を委ねてしまい、義務以外の様々な豊かな恵みを捨て去ってしまったから。

ギルドは本来、戦闘の仲介と裁定を行っていた。だが、デルフィーネの意向でデュシスの違反を見逃す。

貸与されたユニットを管理する技官達。だが貸与の是非を決めるのは、デルフィーネの気分次第である。

誓約の儀式に参加できるのは優秀な者だけで、一般のギルド人は単純に思考の条件付けされるだけである。




本来ギルド人はもっと自由な意思を持っていた。だがデルフィーネの支配により、全てのギルド人は思考改造を受け、自由や幸福追求権を奪われてしまった。

21話「ルーク・ディーオ」(DVD1巻)
アレックスすら圧倒するシカーダの体術の凄さが見事に表現されている。またエージェントの活躍にも注目。

23話「キャプリング・ルシオラ」(DVD2巻)
ルシオラに武器を渡すコキネラに注目。ルシオラが時間をかけて、同期連を味方にしてきたことが伺える。

25話「クワイエット・ムーブ」(DVD3巻)
侍女のニプルとプルウィアと、クラウスとの息詰まる空中戦は必見。タチアナの冷静な指示ぶりも良い。

The Avenger

復讐……アレックス・ロウ

●アレックス・ロウ

アレックスは本来、こんなに寡黙な人物ではなかったのだろう。幼いクラウスを兄弟のように可愛がったり、ラヴィにヤギのぬいぐるみを贈ったりと、その優しい人となりが伺える。だがあの日、尊敬する人と将来を誓い合った大切な人を同時に失ってから、アレックスは変わってしまったのだろう。

アレックスは言う。自分は負け犬だと、そしてマエストロ・デルフィーネは笑っていたと。

アレックスを変えてしまったのは恩師を見殺しにした無力感と、愛する人を失ってしまった喪失感。その複雑な感情は、やがて大きく強固な復讐心へと繋がっていく。だが、成長したクラウスを見た時、彼の中に見えない変化が起きる。

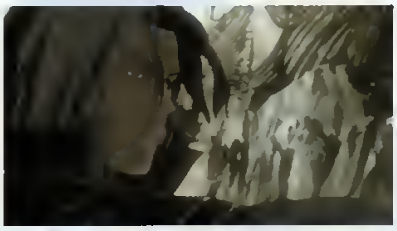
かつての恩師であるハミルカルの息子が、この大空で何を見せてくれるのだろうか…。アレックスは口にこそしなかったが、本当はこう言いたかったのだろう。

「俺が尊敬していたパイロットは、風を味方にして自在にヴァンシップを操っていた。クラウス・ヴァルカ、その名にかけてグランドストリームを越えてみろ」と…。

最後の瞬間、アレックスは本当の意味で未来を見たのかも知れない。

アレックスは逸材として、ハミルカルから期待されていた。また、ユーリスとは将来を誓い合っていた。

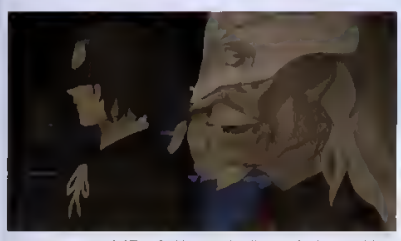
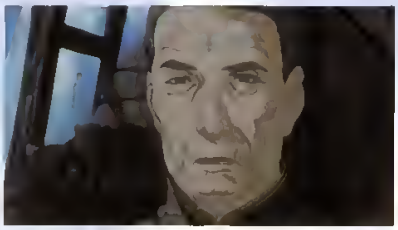
グランドストリーム突破を果たせず、恩師と未来の両方を失う。彼に残されたのは絶望だけだった。



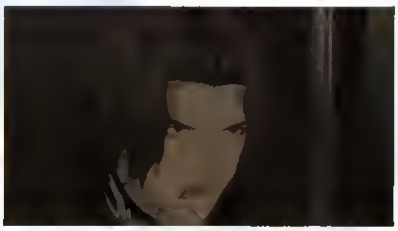
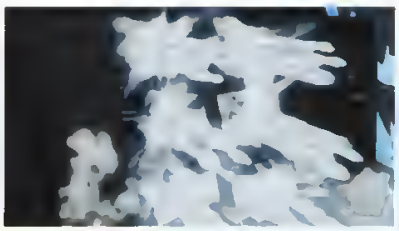
復讐を胸に秘め、アレックスは帝都へと戻る。そして10年後…彼の前に恩師の子供達が現れるのだった。

左●若い頃のアレックス
右●ユーリス・パシアヌス

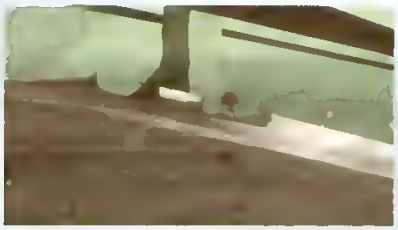
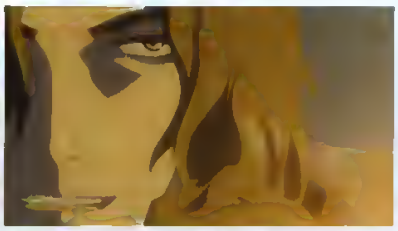
アレックスにとって、クラウスは恩師の大事な息子である。だからこそ、彼はクラウスに厳しく接する。

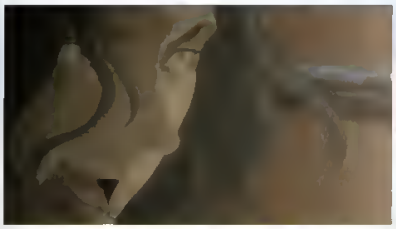
アレックスの究極の目的はエクザイルを沈め、ギルドの支配を崩壊させることにあった。そのための鍵として様々な手段でミュステリオンを探し求めていた。

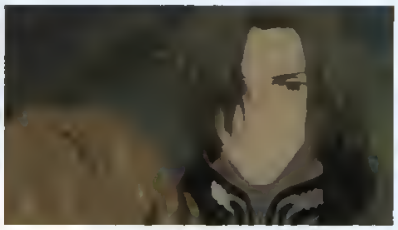



アレックスの野望の前にヴィンスが立ち塞がる。士官学校以来の戦友との戦いは、辛くもアレックスが勝利を収めるが、シルヴァーナも酷い損傷を受ける。

アレックスは全てをクラウスに話した。恩師とユーリスのことやデルフィーネへの復讐心を。過去をキチンと話した上でクラウスに決断を選択させるのだった。





アレックスは類稀なる指揮能力を持つ。だが対ギルドでは感情に走ることもあった。アレックス本人は気付いてないがソフィアの補佐があっての有能さである。

デルフィーネに拘束されたアレックスは、デルフィーネの悪趣味な拷問と自白を強要させられた。だがアレックスはひたすら待ち続けた。千載一遇の時を。

21話「ルーク・ディーオ」(DVD11巻)
ギルドのエージェントを次々と倒すアレックス。だがあと一歩という所でシカーダに捕縛されてしまう。残念。

22話「クイーン・デルフィーネ」(DVD11巻)
真実の血清を生成するバラに緊縛された姿で登場。デルフィーネの趣味の悪さも同時にわかる一幕である。

23話「リザイン」(DVD12巻)
片手でデルフィーネの首をへし折ってしまう。その復讐心の強さとユーリスへの愛の深さが表れている。

Absolute Empress

君臨……デルフィーネ・エラクレア

●デルフィーネ・エラクレア

デルフィーネがギルドの最高指導者「マエストロ」の地位に就いたのは、弱冠13歳の時だった。聡明だが権謀術数に長けたデルフィーネは、腹心であるシカーダとともに、四大家系の主だった者や両親を次々と抹殺し、実力でその地位を手に入れたのだ。

彼女にとって、自分自身こそが世界の全てであり、自分以外の存在は取るに足らないものであった。だから、グランドストリームの中で、木の葉のように舞い散るヴァンシップを見た時、微笑みを隠せなかったのである。自身の地位と、あまりにも隔たりのある地上人との格差に…。

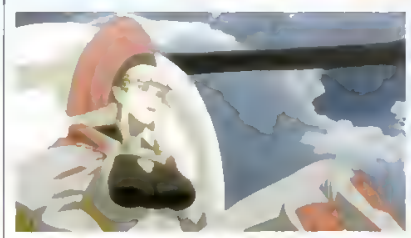
だがデルフィーネは最後まで知ることはなかった。自分が作り上げた、自分だけの世界が、どれだけ脆弱なものであったかを…友を想う気持ちや、復讐を誓う執念や、平和を願う人々の力強さを。

デルフィーネは、アレックスの片手1本で亡くなった。たった、1本の腕で、彼女と、彼女自身の世界は崩壊したのである。

バラは、僅かな環境の変化でも枯れてしまう。だが乾燥した大地にしっかりと根付くオリーブの木は、無限の生命力に溢れているのである。

マエストロの座に即いたデルフィーネは、溺愛する弟、ディーオのために、ルシオラをプレゼントする。

だが、ディーオと仲の良いルシオラに対して嫉妬する。デルフィーネの性格の一端が表れているようだ。



わがままで奔放ながらも冷徹な判断力と統率力で、ギルドの全てを恐怖と思想改造で支配するのだった。

**デルフィーネ
エピソード　インデックス**

10話「フィオリナ」(DVD5巻)
デルフィーネ様初登場　アレックスとの競り合いに興じる姿はまさに女王様そのものであった

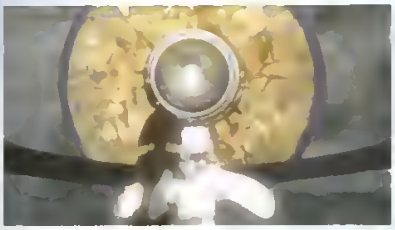
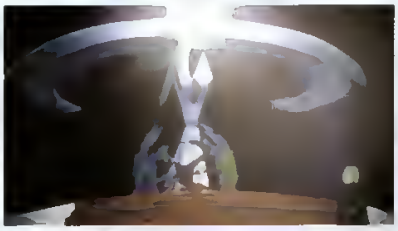
17話「オイキングーアナリア」(DVD8巻)
やはり、わがままで短気な性格の一端が表れているデルフィーネ様の入浴シーンはハズせないであろう

●15歳の頃

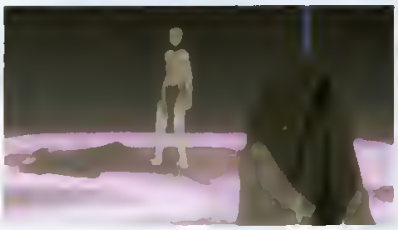
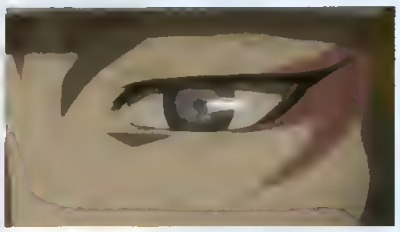
デルフィーネの束縛はディーオにも及んだ。ディーオの異常な恐怖心は彼女の恐ろしさの証明でもある。

世界の科学技術全てを支配下に置くデルフィーネの権力は絶大で地上人の生殺与奪も彼女の気まぐれひとつにかかっていた。まさに世界は彼女のためにあった。

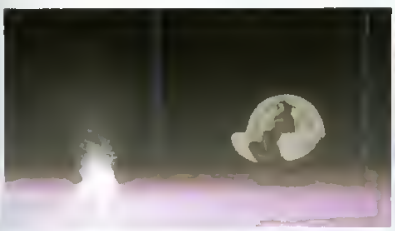
デルフィーネは自分に逆らうディーオに対して人格崩壊寸前の思想改造を加えた。彼女か愛していたのは弟という入れ物であり、人物そのものではなかった。

デルフィーネがエグザイルについて正確な知識を持っていたかは不明である。だが彼女は、自分の力が及ばないものが空にあるのが許せなかったのであろう。

デルフィーネにとって、ルシオラの行動は意外なものであった。また最後まで実感していないが、シカーダという側近を失ったのは実は痛恨事であったのだ。



ルシオラを抹殺し、シカーダを失ったデルフィーネは、自身も知らぬうちに暴走を始める。だが彼女の手足となる手駒は、殆と残されていなかったのである。

19話「ハルフォンディフェンス」(DVD10巻)

みっともないという理由だけでユニットを引き上げてしまうデルフィーネ様。さすがのシカーダもタジタジだ。

23話「クイーン・デルフィーネ」(DVD11巻)

飲めるようにディーオを可愛がったり、アレックスをいたぶったりとデルフィーネ様の本領が発揮された回だ。

26話「ハザイント」(DVD12巻)

もし、デルフィーネ様の側にシカーダが控えていれば、アレックスに命を取られることもなかったのでは…。

The Way to Grand Stream

大いなる風の道へ…

様々な犠牲の果てにユニットを制圧したアナトレーとデュシスの同盟艦隊は、ついにギルドへと突入する。

その頃、ルシオラの手引きでギルド城を脱出したクラウス、アル、ディーオは、マドセインの野戦病院で手当てを受けていた。ノルキアはギルド城下部の落下で、甚大な被害を受けていた。クラウス達もその落下に巻き込まれていたのだ。アルはそこで、ナースとして働くホリーの姿を見かけた。かつては気弱な深窓の令嬢だったホリーが、逞しく、強く生きる姿を見たアルは、オリーブの花とともに、平和を願う気持ちを受け取るのだった。

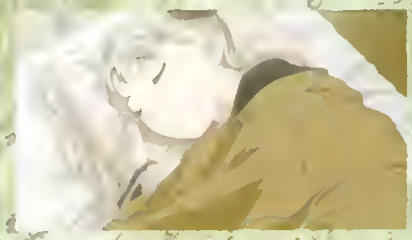
空では同盟艦隊とギルドとの激しい戦闘が始まっていた。クラウス達はディーオを病院に預け、一旦自宅へと戻る。シルヴァーナとの連絡がついたクラウスは、両親の墓の前で、全ての決着をつける決意を固めるのだった。

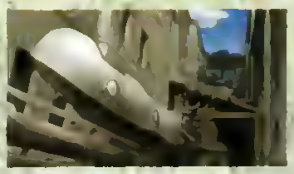
クラウス達はソフィアの指示で一路、龍の牙へと向かった。ラヴィが小さい頃に記したヴァンシップの操縦ノートを見つけていたアルは、ナビを買って出る。龍の牙からの航路にはソフィアの指示で、代替機とシルヴァーナの仲間達が待っていた。アリスにタチアナ、大空の仲間達がクラウス達を支えていたのだ。だがそこに、ギルドの追撃機が迫ってきた。

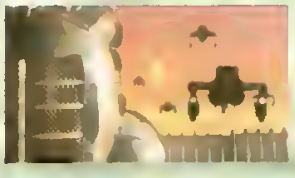
辛くもギルドの追撃を振り切ったクラウス達は、ウォーカーパレスへと到着する。そこにはラヴィと、修理を終えた自分達のヴァンシップが待っていたのである。

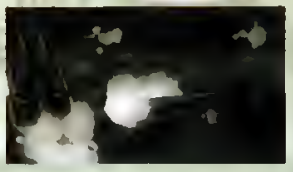
クラウスはラヴィとの約束を果たすため、アルと最後のミュステリオンを携えグランドストリームへと突入する。だがそこにディーオが襲いかかってくるのだった。

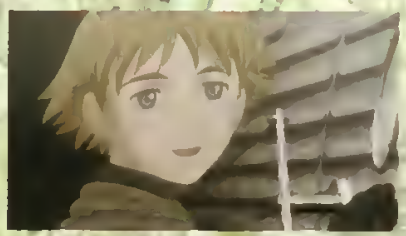
ディーオはクラウスを襲いつつもかつてのレースの記憶を取り戻していた。彼にはルシオラの幻が見えていたのだろうか…クラウスに勝ち、ルシオラの身を案じた刹那、ディーオの体は強風に煽られグランドストリームに消えていくのだった。

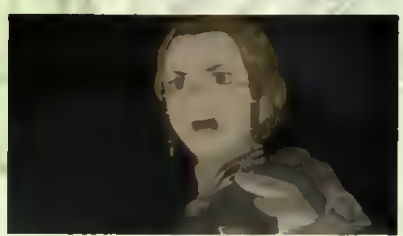


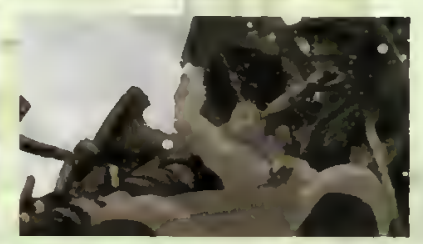












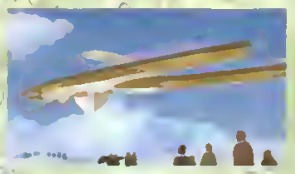
The Way to Grand Stream

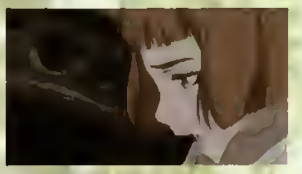
大いなる風の道へ…

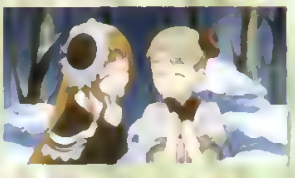
交戦中の同盟艦隊は次々とエグザイルの触手に破壊された。ヴィンスが血路を開く中、ソフィアは突撃を敢行する。一方ギルド旗艦内ではアレックスが復讐を果たそうとしていた。片手でデルフィーネの首を握りつぶしたアレックスは万感を込めて呟いた。「空へ」と…。

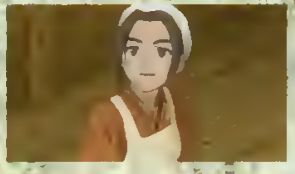
死力を尽くしてグランドストリームを突破したクラウス達はエグザイルを発動させた。

戦いは終わった。新天地へと渡ったクラウス達は、改めて築いた両親の墓前で平和を誓い、青い空をどこまでも高く、遠く飛んで行くのだった。大切な仲間達と良き風とともに。









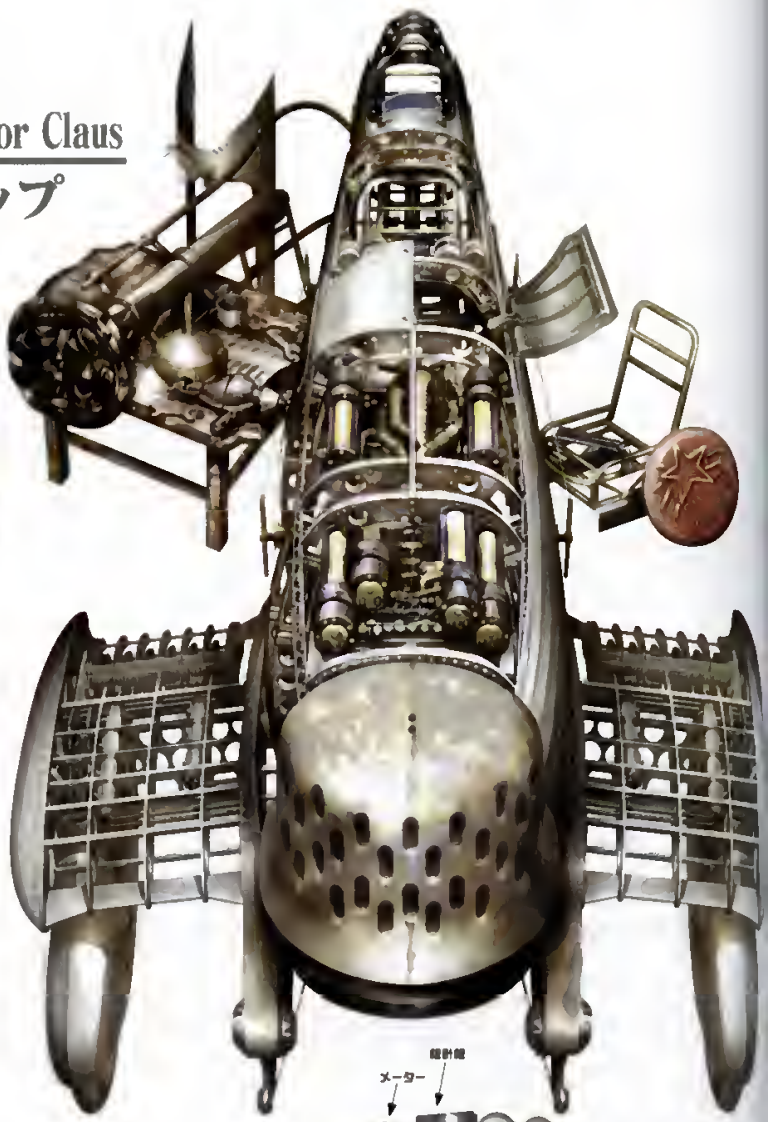
LASTEXILE Aerial Log

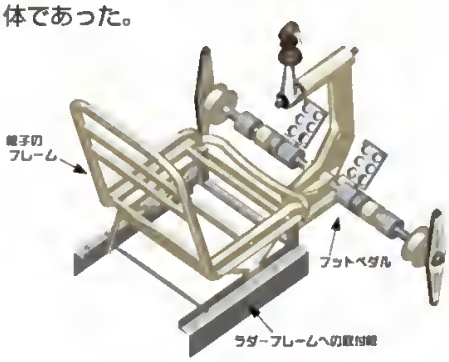
MECHANIC REPORT

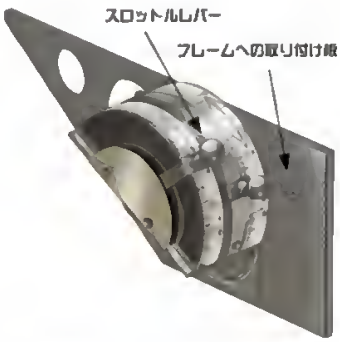
VANSHIP for Claus

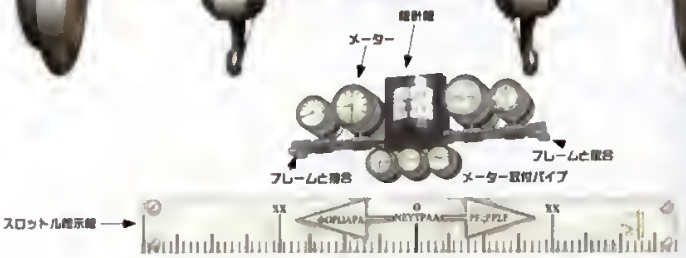
クラウス用ヴァンシップ

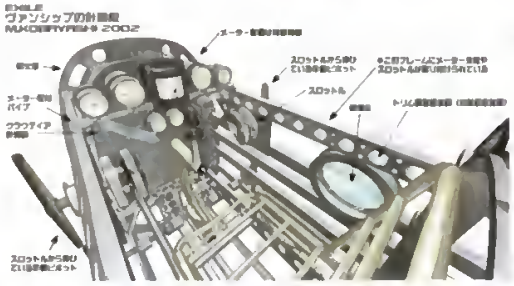
クラウスとラヴィの愛機は、両親の形見である。12年前にグランドストリーム突破用として建造されたもので、他のヴァンシップよりも頑丈な造りとなっている。レース用に各部を軽量化しており、形としては古いが最近の量産タイプと比較しても性能は高い。最終決戦に向け、シルヴァーナ内で本来の姿に戻されて活躍した。後にアレックスの愛機と判明するが、クラウスとラヴィにとって、家を手放しても残さなければならない大切な機体であった。

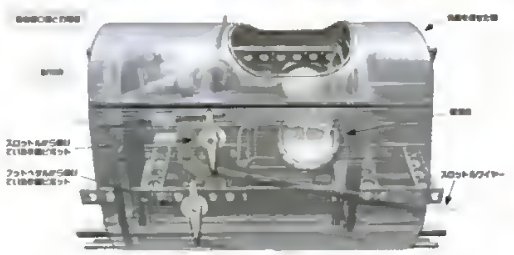


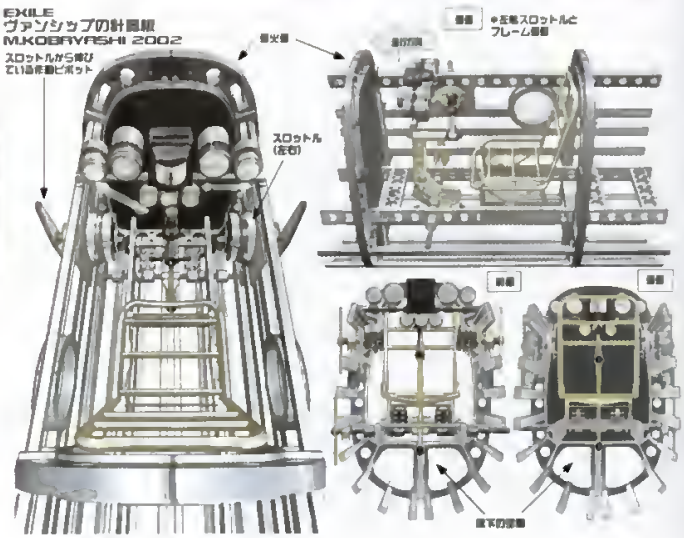




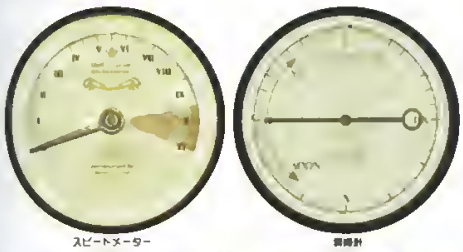


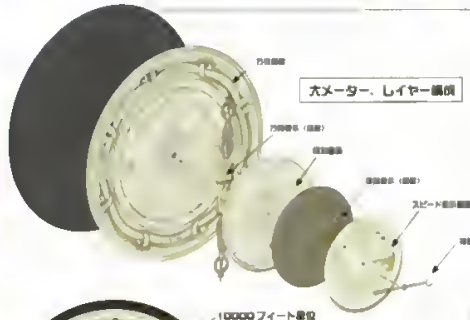


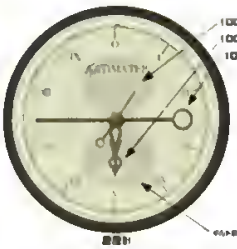




EXILE
ヴァンシップの計器類
M.KOBAYASHI 2002







高度計は全てギルドによってつくり出されていて
旧式に見えて実はエンコーディング方式。
計測値も同様、
構造による架空の数値を示し、同層空層世界を、
現実の層層関係と整合させている。

ヴァンシップ組合によって
作成、又、承認されている
事を示す印

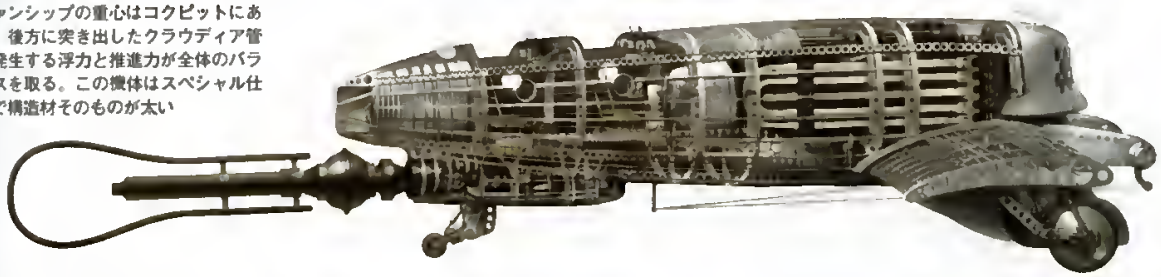
アナトレー家の規格に適合
している事を示す印

●ヴァンシップ組合のマーク

Χλαυσ ραλχα
φιρτηερσ πανσηιπ
σπιλιτ οφ γρανδ στρεαμ XXXIXVIXII

●内部構造

ヴァンシップの重心はコクピットにあり、後方に突き出したクラウディア管で発生する浮力と推進力が全体のバランスを取る。この機体はスペシャル仕様で構造材そのものが太い



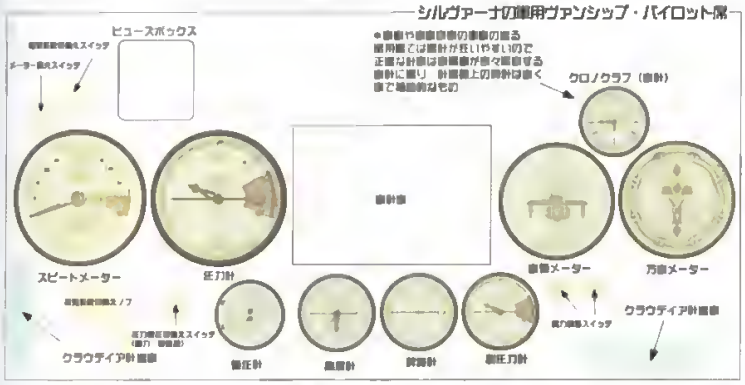
●メンテナンスハッチ　開放状態

通常の整備と改造は２人だけで行っている。10年間慣れ親しんだ機体は２人にとって肉体の一部である。精密機械であるヴァンシップにはメンテナンスがかかせない

VANSHIP for Military
軍用ヴァンシップ

●タチアナ用ヴァンシップ
マリウス宰相の工廠で生産された最新式の軍用ヴァンシップ。技量の高い特別なパイロットにのみに配備されている特別仕様である

機体構造や強度は通常のものと大差がないが、2基の高出力エンジンを装備しており、機動力と出力が桁違いとなる。蒸気式機銃を固定武装とするだけでなく、外装式の増漕タンク用パイロンがあり、長距離の偵察飛行もこなす。パイロンに爆弾を装備すれば、艦上爆撃機として運用できる秘密兵器でもあった。限られた配備しかされず、パイロットとナビはエリートに限定された、戦うためのヴァンシップである。タチアナとアリスの愛機。



●シルヴァーナ艦載機

●クラウス使用機

●ヘヴィカーゴ（皇帝専用機）

VANSHIP for Races

レース用ヴァンシップ

●サニー・ボーイ機

●ファット・チキン機

●ハリケン・ホーク機

ホライゾンケイブでの機体

●クラウス機

●タチアナ機

●ディーオ機

●17話
初老のパイロットのヴァンシップ

共鳴器の形状

クラウディア管の後部共鳴器は、機体別の特徴がある。クラウス機はギルドの旗飾りを流用しているので円形だが、量産型のガッディ＆ヴィーゴ工廠やヴィテルボ工廠は独自の角張りがある。軍用機は二連装の方場が干渉しない新型式である

SILVERNA

シルヴァーナ

宰相の造船計画により秘密裏に建造されたギルドに頼らない地上人の戦艦。レシウスのギルド船からユニットを移植し、艦体そのものを新設計している。そのために既存の艦体と構造が大きく異なる。一番の特徴はヴァンシップを艦載機として搭載するための甲板と格納庫である。さらに、蒸気式の大砲ではギルドと戦えないために、その装甲を破壊可能な各種装備を新兵器として備えている。皇帝直属の秘密戦艦として行動するので姿を見たものは少ない。

●多連装徹甲噴進弾

ブースターを応用し、大型弾頭を高初速で発射する。その大貫徹力は巨大な戦艦を一撃で粉砕する。真後ろにしか発射できないが、運動エネルギーは強大である

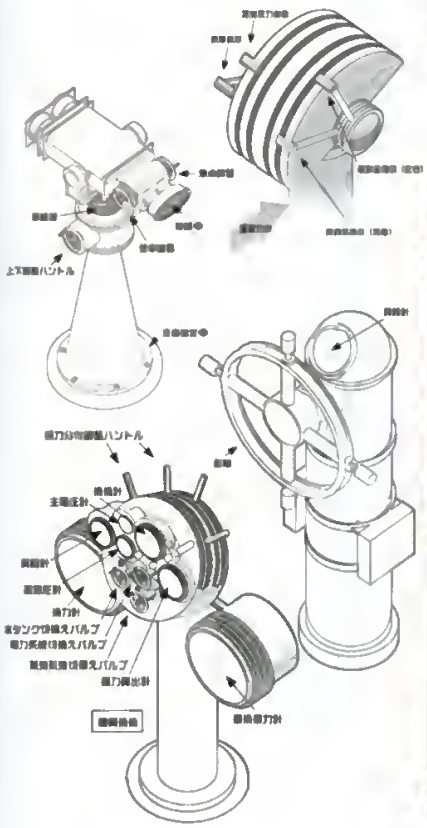
●漸減口径式重高角砲

●重高角砲細部

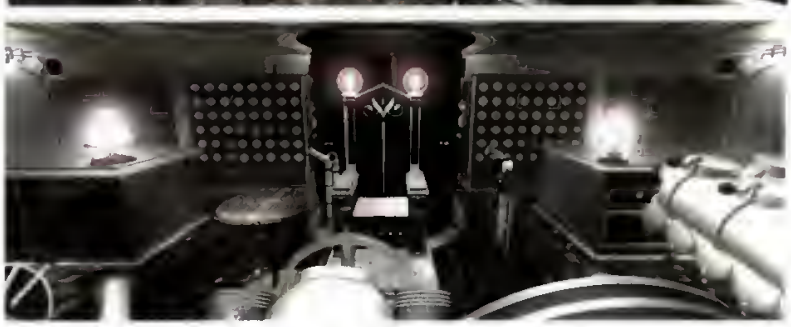
砲身の内径が先端に至るほど細くなっており、発射時の初速が速い。重金属弾芯の周囲に軽合金を巻いた砲弾は、高初速と大貫徹力を持ち、ギルド戦艦の重装甲をも貫くことができる

EXILE
シルヴァーナ・昼戦艦橋
M.KOBAYASHI 2002

外部への出入口（両舷）
日誌台
テーブル
ダメージコントロール
パネル（両舷）
艦長席
見張り台、下部デッキへの出入口（両舷）
窓
手摺
地図入れ
スピーカー/
警報ベル
ロッカー
速度指示器
機関制御装置
操舵装置
聴音装置
副長立ち位置/
艦内電話器
大型望遠鏡（両舷）
窓部装甲アイリス開閉弁
海図台



EXILE
シルヴァーナ・昼戦艦橋
M.KOBAYASHI 2002



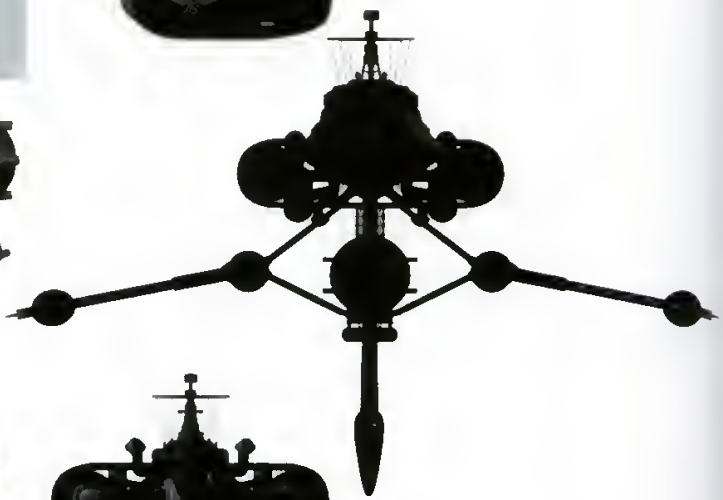
URBANUS
ウルバヌス

シルヴァーナの建造データをもとにして新規に建造された新型高速戦艦。巨大なヴァンシップのように見える艦体は、既存の戦艦とは全く異なった構造である。艦首のラム(衝角)で敵戦艦を貫く戦法も取れる。同型艦は6隻建造された。多数の魚雷を装備しているのが大きな特徴で、ユニットも独自に製作されたのでギルドに探知されない無音航行も可能。シルヴァーナと協力して時限信管を利用した音響魚雷を使い、エクザイル探索に活躍した。

●艦長席

●マーキング

●音響魚雷

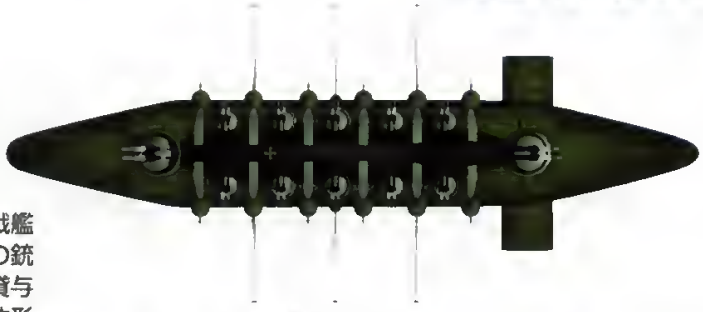


●アンカー魚雷

ANATORAY Battle Ship

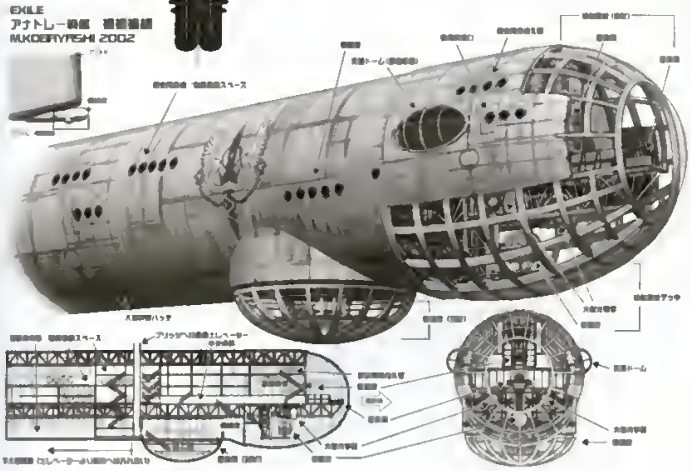
アナトレー戦艦

マドセイン艦隊のクラウ・ソラスは標準型の戦艦で、高速ではないが重装甲で、多くの砲、多くの銃兵を配備している。飛行ユニットはギルドから貸与されたもので、それを包むように設計された艦体形状は、どの艦も大体似たものとなる。アナトレーの騎士道により、戦闘は半分儀式化している。銃兵ハッチを開いての銃撃戦から始まり、蒸気圧で発射される大砲の撃ち合いを行う戦闘に特化した戦艦。艦橋は飛行船型で有視界戦闘を重視。



●クラウ・ソラス

EXILE
アナトレー戦艦 機関機銃
MUKOBAYASHI 2002

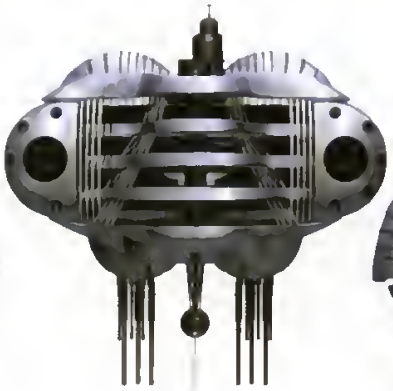


EXILE
アナトレー戦艦ブリッジ大型光学機
MUKOBAYASHI 2002

DISITH Battle Ship

デュシス戦艦

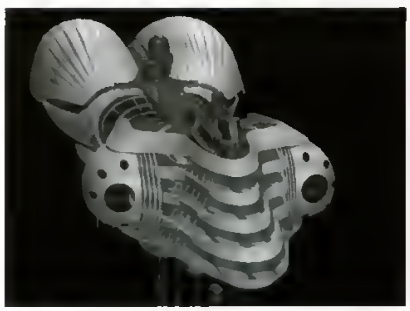
デュシスの標準戦艦であるレパラシオン型戦艦。艦中心部の、鉄骨を組み合わせた構造が特徴。デュシス艦隊は遠征艦隊なので、装甲で完全に覆わず、被弾時の修理が容易にできるよう設計された。だが、フレーム自体を砲撃戦で破壊されてしまうと損害が大きい。



アナトレー戦艦とは対照的な流線的デザインは、グランドストリームを航行するときに風の抵抗を受けないように考慮されたため

●移民カプセル

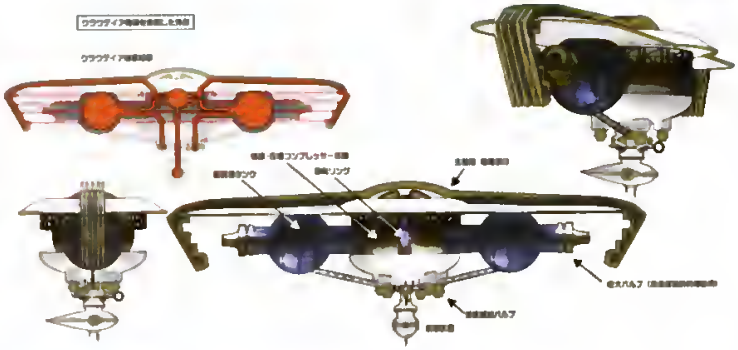
本来、デュシス戦艦がグランドストリームを突破するときのシールド装置を、無理やり改造した不安定なカプセル

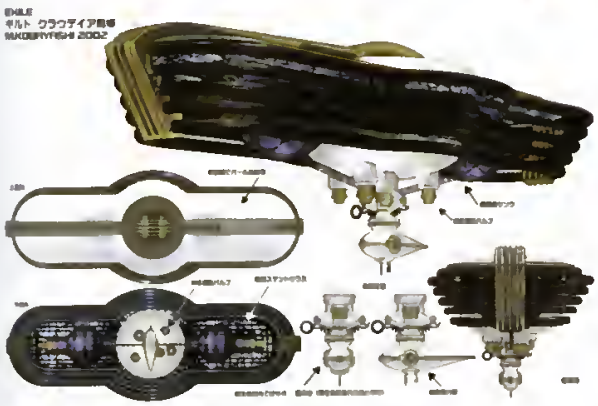


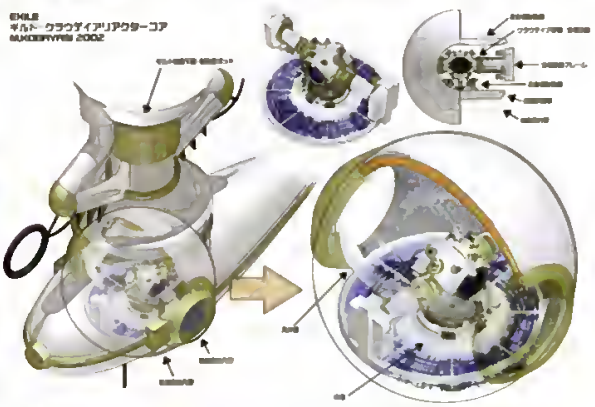
CLAUDIA UNIT

クラウディア・ユニット

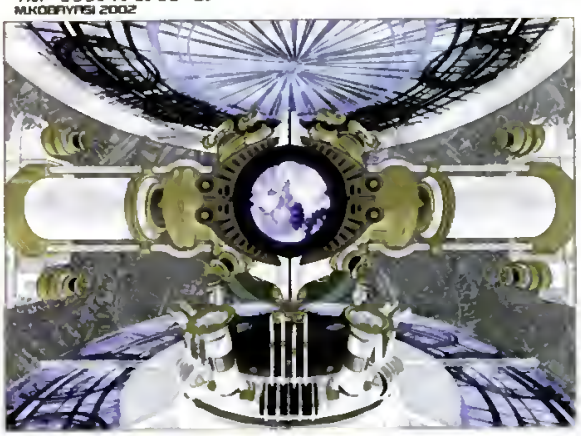
ギルドから貸与されている戦艦の心臓部分。アナトレーもデュシスも、船体中央部に収容している。内部は立ち入り禁止で、ギルドの技士が艦橋からの命令で操作している。したがって、ギルドに逆らう操船は不可能であり、一方的に回収されると戦艦は墜落するしかない。

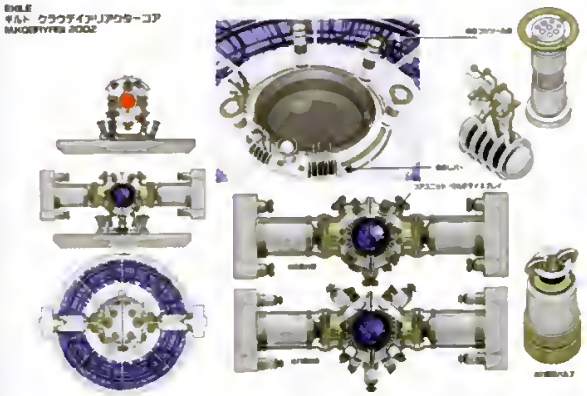






EXILE
ギルド・クラウディアリアクターコア
M.KOBAYASHI 2002





GUILD Battle Ship

ギルド戦艦

この世界において最強の戦艦。グランドストリームの中を、自由に航行できる重力干渉リングを持つ。赤いカラーリングはデルフィーネ艦で、障害物排除用の自律する軍旗が10年前にクラウスの父達が搭乗するヴァンシップをたたき落とした。通常の兵器では対抗不能。